

小学校 5年 社会科 学習指導案

実践名：「情報とわたしたちの暮らし」

小学校第5学年 社会科学習指導案

日 時：平成23年11月22日（火）

場 所：田浦小学校 5年1組教室

授業者：5年1組担任 教諭 今脇三仁

1 単元名 情報化した社会とわたしたちの生活（東京書籍）

2 単元について

(1) 単元のねらい

本単元は、小学校学習指導要領5年社会科の目標（2）にある「我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連について理解できるようにし、我が国の産業の発展や社会の情報化の進展に関心をもつようにする。」における、社会の情報化の進展に関する学習である。

近年の情報化の進歩は、予想以上の速さで進展し、多種多様な状況になっている。病院のカルテの電子化・遠隔治療に生かされたり、携帯電話からのブログ作成が可能になり個人の写真が世界中の人々から見られたりするようになった。また、課題としてネットの匿名性による掲示板等での他人の誹謗中傷、個人情報の流出、人と人とのコミュニケーションの低下などがあげられる。

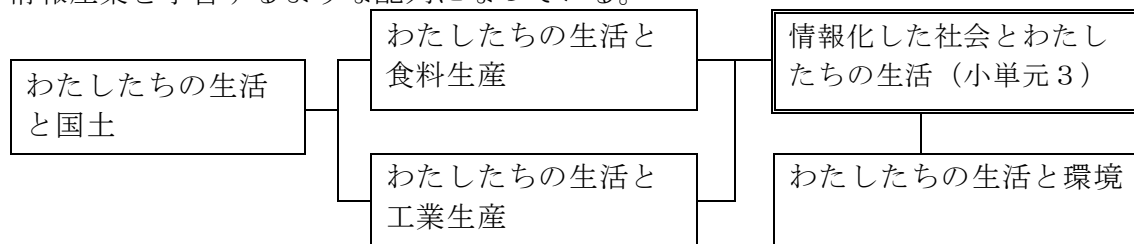
そこで、この単元において、我が国の情報産業や情報化した社会の様子について、「放送、新聞などの産業と国民生活とのかかわり」、「情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり」について調査したり資料を活用したりして調べることで、より速く正確に情報を伝えようとする人々の工夫や努力を理解させることをねらっている。また、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや、有効な情報を活用する大切さを考えることをねらった単元である。

資料や統計などを効果的に活用して社会事象の意味を考えたり、調べたことや考えたことを表現する機会を設定したりすることで、日常生活の中での知的好奇心を高めたり、思ったことを表現する力を発揮する上でも有効な単元である。

これらの学習を通して、情報が人々の生活や産業と密接に関連し、影響を考えることは今後、公民的資質を養う上でも意義深い。

(2) 本単元の系統は以下のとおりである。

5年生では以下の流れで1年間学習を進めていく。情報についての学習は、年間の中で後期に位置し、日本の産業の中で食料生産にかかわる農業と水産業、ものを作りだす工業、そして情報産業を学習するような配列になっている。



本単元は、「情報産業とわたしたちの暮らし」、「社会を変える情報」、「情報を生かすわたしたち」の3つの小単元から構成されている。

(3) 児童の実態は以下のとおりである。(在籍数 名)

アンケートの結果は以下の通りである。

① わたしたちの生活で、情報を伝えてくれるものには、どんなものがありますか。

テレビ	名	、	ラジオ	名	、	インターネット	名
地デジ	名	、	新聞	名			

② あなたは、調べ学習の時に使うものは、何ですか。

図書室の本	名	、	家の本	名	、	家の人	名	、	先生	名	、
知っている人	名	、	パソコンのインターネット	名	、	その他	名				

③ 一つのことから調べる時、「図書室の本」と「家の人にインタビュー」のように、いくつかの調べ方を組み合わせますか。それとも、一つの調べ方だけで調べますか。

組み合わせる	名	、	一つだけ	名	、	わからない	名
--------	---	---	------	---	---	-------	---

④ 知らない人からあなたの家に、友だちの住所や電話番号をたずねる電話がかかってきた時に、住所や電話番号を教えますか。

教える	名	、	教えない	名	、	わからない	名
-----	---	---	------	---	---	-------	---

⑤ 情報に関する仕事をしている人たちが気をつけていることには、どんなことがあると思いますか。考えたことを書きましょう。

〈考察〉

本学級の児童は、情報を伝えるものへの意識は非常に高く、多くの情報を受け取っていることが分かる。特にテレビの視聴時間や日頃の会話などから、テレビからの情報を多く得ていることが分かる。また、調べ学習の際に、パソコンを使って調べようとする児童が多い。そのため、最初に図書室の本やインタビューをしようとする児童は少ない。一つの方法で必要な情報が見つかった時は、見つけたことで満足し、他の方法で探したり、比較したりすることは少ない。

個人情報の意識は高く、住所や生年月日に関して「これには個人情報が入っているから…」という発言を聞くことがある。

(4) 指導にあたっては次の点に留意する。

① 社会科教育の視点から

ア 日常生活や産業における情報手段の中で、児童が身近に感じているテレビについて取り上げることとする。

イ 必要な情報を集める方法や生かす方法、生活に大きな影響を及ぼした例等、放送に携わる人たちにインタビューをしたり、メールで質問したりする。

ウ 情報ネットワークを有効に活用して公共サービスの向上に努めている例を、地域の実態から医療(または、防災)の事例を取り上げ、かかわる人たちから話を聞いたり、コンピュータを実際に使ってインターネットで情報を収集したりする。

エ 学習したことや学校や学級の紹介を、自分たちでまとめホームページで発信する活動を取り入れることで、情報で学習したことを現実の社会で生かす場とする。

② 情報モラル教育の視点から

ア 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「3. 安全への知恵」の「e3-1 情報の正確さを判断する方法を知る」との関連を重視して展開する。

イ メディアの様々な特長やそれぞれの長所と短所について学んだ後、情報の正確さを判断するために、それらを比較・検討して考えることが大切であることを理解させる。

ウ 1次で「5. 公共的なネットワーク社会の構築」や「3. 安全への知恵」、2次では「5. 公共的なネットワーク社会の構築」、3次では「1. 情報社会の倫理」について、小单元ごとに「モデルカリキュラム」にある内容を学ぶ時間を組み込んでいく。

エ 発信した情報の影響力を想像することで、正確な情報を発信しようとする態度を育

てる。

オ 放送を支える人たちの取組を学ぶことを通して、情報は公共のものであるという思いを感じさせる。

③ 人権教育の視点

ア 自分の考えを、自信を持って発表できるような支持的風土づくりに努める。

イ 他の人の意見も尊重しながら、ともに学習しようとする態度を育てる。

3 単元の目標と評価規準

観点	単元の目標
社会的事象への関心・意欲・態度	放送、新聞などの情報産業と国民生活とのかかわりに関心をもって意欲的に調べ、情報を有効に活用することができる。
社会的な思考・判断・表現	放送や新聞などの情報産業と国民生活とを関連づけて思考・判断したことを適切に表現することができる。
観察・資料活用の技能	我が国の情報産業の様子から学習問題を見だし、資料や新聞記事、インターネットを活用するなどして必要な情報を集めて読み取ったことを図表や作品にまとめることができる。
社会的事象についての知識・理解	情報産業が国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや、情報産業を通じた情報の有効な活用が大切であることを理解することができる。

観点	単元の評価規準
社会的事象への関心・意欲・態度	・放送などの情報産業と国民生活とのかかわりに関心をもち、意欲的に調べることができる。 ・情報産業の発展に関心をもち、マスメディアを通じた情報を有効に活用しようとしている。
社会的な思考・判断・表現	・情報産業と国民生活とのかかわりについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現することができる。 ・マスメディアは受け手の立場に立って情報を選んで伝えており、その情報は国民生活に大きな影響を与えていることや、受け取る側のわたしたちは情報を見分け冷静に判断して活用することが大切であることを考え、表現することができる。
観察・資料活用の技能	・国民生活とのかかわりについて、各種の資料や新聞記事、インターネットを活用するなどして必要な情報を集め、新聞社の仕事やメディアの特徴、マスメディアを通じた情報が国民生活に与える影響などを読み取ることができる。
社会的事象についての知識・理解	・わたしたちは生活の中でマスメディアから多くの情報を受け取り、それらに大きな影響を受けていること、新聞社では読者や社会の求める情報を選び取って発信していること、これらの情報を見分けて有効に活用することが大切であることを理解することができる。

4 指導・評価の計画（16時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価項目（方法）
1	1	まちと家庭の中、二枚の写真から身の回りにどのような情報があるか話し合う。	児童の身の回りにある写真を見せ、できるだけ具体的に発表したり記述させたりする。	☆〈関意態〉 自分のまわりには、多様な情報があることに関心をもっている。（発言・ノート）
	2	一日の中でテレビ放送からどんな情報を得ているかを具体的に挙げ、発表しあう。	テレビから得た情報をどう活用しているか話し合い、学習問題を設定する。	☆〈関意態〉 テレビからたくさんの情報を得ていることに気づき、関心をもって調べようとしている。（発言・ノート）
	小単元の学習問題 わたしたちは、テレビの伝える情報をどのように生かしているのでしょうか。			
	3	テレビ局のホームページを調べたり、ニュース番組づくりにかかわる人々のインタビューを読んだりして、分かったことや疑問に思ったことを発表し合う。	教科書やホームページ、資料集などを参考に、調べさせる。 可能であれば、実際に見学に行きインタビューをさせる。	☆〈技能〉 放送局からどのように情報が提供されているか、資料を効果的に活用したり聞き取り調査をしたりして調べ、視聴者の立場に立った工夫をしていることを読み取って発表している。（ノート）
	4	地デジ放送へのよさについて資料をもとに資料をもとに発表し合う。様々なメディアの特徴について調べてまとめ話し合う。	地デジになってできるようになったことにはどんなことがあるか考えたり、実際の経験を想起させたりする。	☆〈知理〉 メディアにはそれぞれの特徴があり、わたしたちは生活のなかでそれらを使い分けて活用していることを理解している。（ノート・評価問題）
2	5 本時	メディアを通して情報を発信する側と受け取る側のそれぞれが気をつけることを考え、お互いの関係で大切なことをまとめる。	メディアで流される情報には、送り手の意図があることに気づかせる。 受け取る側によって同じ情報でも異なることに気づかせる。	☆〈思判表〉 学習したことをもとに、情報を送る側、受け取る側が気をつけることについて考え、双方の立場に立った情報の選択・判断や活用が大切であることを文章に表現している。（発言・ノート）
	6	生活の中で使っている情報機器に気づき、その情報をどのように活用しているか発表しあう。	話し合いのをする中から、活用しているネットワークについて知りたいことを出させる。それらの中から学習問題を設定する。	☆〈関意態〉 生活の中で様々な形で情報ネットワークを活用することから、情報ネットワークとわたしたちの生活とのかかわりに関心をもっている。（発言・ノート）
小単元の学習問題 わたしたちは、くらしの中でどのように情報ネットワークを利用しているのでしょうか。				
	7	情報の電子化を行っている病院について調べ、そのよさを話し合う。	情報が電子化されている病院について、資料などをもとに調べ、その便利さについて話し合う。	☆〈知理〉 受信者情報やカルテの電子化により、病院での医療サービスが向上していることを理解している。（ノート）
	8・9	地域の病院が総合病院とつながって地域医療の向上をしている事例を調べる。救急車の情報システムについて調べ、患者を速く病院へ届けるためにどのような工夫を調べる。	総合病院を中心として地域医療がつながっている金沢市の事例を調べ、わかったことを発表させる。 救急車の情報システムについて調べ、患者を速く病院へ届けるためにどのような工夫をしているのか発表させる。	☆〈思判表〉 情報ネットワークはわたしたちの生活にどのように役立っているかを考え、医療現場における情報ネットワークの活用によりわたしたちの命や健康が守られていることを発表している。（発言・ノート）

	10	遠隔医療について教科書や資料集などで調べ、発表する。	情報化の進歩により、離れていても医療相談ができるシステムを資料から知り、その便利さについて考えたことを発表させる。	☆〈技能〉 遠隔医療や在宅医療について、資料を効果的に活用して調べ、それらがこれまで困難であったことを可能にしていることを読み取って発表している。(発言・評価問題)
3	11	コマーシャルをどのように生かしているのかを考え、増えている問題点から、学習問題を設定する。	コマーシャルを例に、生活にどのように生かしているか発表させる。 コマーシャルの苦情の増加から、情報を上手に生かす方法を考えさせる。	☆〈関意態〉 生活の中での情報の活用に関心を持ち、学習問題をつくって意欲的に調べようとしている。(発言・ノート)
		小単元の学習問題 わたしたちは、どのようにすれば情報を上手に生かすことができるでしょうか。		
	12	携帯電話のよさやネットワークを生かした産業について調べ、わかったことを話し合う。	携帯電話の光と影について知らせる。 情報ネットワークを活用した産業の例としてコンビニエンスストアを取り上げ、資料をもとに話し合わせる。	☆〈知理〉 生活に情報を活用することによって、生活が便利になっていることを理解している。(発言・ノート)
	13 ・ 14	情報化の進展によって生じている問題点について資料をもとに調べ、話し合う。	情報化の進展によって生じている問題点について教科書や資料集などをもとに調べ、話し合わせる。 わたしたちが情報を受け取る側だけでなく発信する側にもなることに気づかせ、どのようなことに気をつけたらよいか考え、発表させる。	☆〈技能〉 グラフ等の資料から、情報化の進展によって生じている問題点を読み取って話し合っている。(発言・ノート) ☆〈思判表〉 情報を選んだり発信したりするときに注意することを考え、メディアリテラシーを身につけ責任ある行動をとることの大切さを発表している。(発言・評価問題)
	15 ・ 16	これまで学習してきたことをもとに、ホームページに載せる内容や記事を考え、作成する。	学習した内容を項目ごとにわけ、それらの内容ごとに、ホームページに掲載するよう計画を立てさせる。 「情報活用宣言」など、学習をもとにわかったことや考えたことをまとめさせる。	☆〈思判表〉 これまでの学習をふまえながら、情報と自分たちの生活とのかかわりについて考え、情報を活用するために自分たちにできることを判断し作品に表現している。(発言・ノート)

5 本時の学習 (5 / 16 時間)

(1) 目標

メディアで流される情報が私たちの生活にもたらす影響を考え、情報を発信する側と受け取る側のそれぞれが気をつけることをまとめることができる。【思考・判断・表現】

(2) 展開

過程	時間	学習活動	主な発問と児童の反応	教師の指導と評価	備考
導入	5分	① 1つの記事から私たちの生活がどうなったかを考える。	○記事を知った人は、どうしたと思いますか。 ・急いでガソリンスタンドに買いに行った。	・私たちは、メディアから流れる情報によって影響を受けていることに気づかせる。	ガソリン値上がりの記事
メディアとわたしたちはどのような関係をつくっていけばよいのでしょうか。					
展開	30分	②メディアで流される情報によって、私たちの生活にどんな影響があるか考える。 ・災害被害の写真 ・CMの画像 ③情報を発信する側と受け取る側の気をつけることを班ごとに考え、発表する。 ・「発信する側」の班 ・「受け取る側」の班 【発信する側】 ・正しい情報を伝える。 ・受け手の立場にも立って伝える。 【受け取る側】 ・情報を比べる。 ・情報の発信源や内容を見分ける。 ・多くの情報を集め、落ち着いて判断する。	○この写真を見て、どんな気持ちになりますか。 ・家がこわれて大変そうだ。 ・大丈夫だろうか。 ・商品を買いたくなる。 ○班ごとにそれぞれの立場で気をつけることを考えてみよう。 ・送る側は、正しい情報を伝えることかな。 ・できるだけ速く知らせることができればいいのではないかな。 ・受け取る側が、気をつけることは、インターネットにある情報をすべて正しいと思わないほうがいいのではないかな。 ・たくさんの情報を比べた方がいいのではないかな。 ○みんなの意見をまとめましょう。	・写真や画像を見て感じたことをそれぞれの言葉で発表させる。 ・一人で考える時間、班で話し合う時間を設定し、送る側、受け取る側の気をつけることを書かせる。 ・情報の中には、送り手の意図があることを伝える。 ・自分の考えを書くことができない児童へは、教科書や資料集をヒントにさせる。 評価 B：情報に関わるためには、互いの立場に立って気をつけることを考え、関連させてまとめている。(ノート)	災害被害の写真 放送局の編集長の林さんの話
お互いの立場に立って、情報を選んだり、判断したり、活用していかななくてはいけない。					
終末	10分	④学習をまとめる。 ・「報道被害」の言葉をおさえ、過去の事例を知らせる。 ・キーワード(情報、発信者、受信者など)を使って学習をまとめる。	○「報道被害」について、紹介します。 ・そんなことがあったなんて信じられない。 ・情報をしっかり見極めることは大切だ。	・「報道被害」の言葉について知らせる。 ・具体的な事例を紹介し、正しい情報の活用を実感させる。	大豆ダイエット 松本サリン事件などの資料

6 モデルカリキュラムの位置づけ

情報モラル	道徳、各教科・特別活動 他
a3: 発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ。	道徳 きまりの意味を考えて「これもチェーンメール」 国語 「ゆるやかにつながるインターネット」 社会 「情報を上手に使いこなす」
b3: 情報に関する自分や他者の権利を尊重する。	国語 「新聞を読もう」 「次への一歩～活動報告書」 図工 「重なると、だれが前、どっちが後ろ？」
c3: 情報社会でのルール・マナーを遵守できる。	道徳 自律的な行動 「遠足の子どもたち」 自由・責任 道徳 あいさつの大切さ「オーストラリアで学んだこと」 礼儀 道徳 約束や規則の尊重「星野くんの二るい打」 規則の尊重 体育 「運動領域」 運動を実践する際に必要な「協力」や「公正」などの態度を育てる。
d3: 情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる。	道徳 きまりの意味を考えて「これもチェーンメール」 社会 「情報を生かすわたしたち」 総合的な学習の時間 電子メールの利用「電子メールで質問しよう」 インターネット利用上の注意「そのページ開いて大丈夫？」
e3: 情報を正しく安全に利用することに努める。	社会 「情報産業とわたしたちの暮らし」 家庭 「考えよう買い物と暮らし」 総合的な学習の時間 掲示板・ブログの利用「個人情報、どこまで大丈夫？」
f3: 安全や健康を害するような行動を抑制できる。	保健 「けがの予防」 身の回りのけがは人の行動と環境が原因で起きることが分かり、周囲の危険に気付いて的確な判断のもとに行動する。
g3: 生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る。	
h3: 情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる。	
i3: 情報社会の一員として、公共的な意識を持つ。	道徳 公共の広場を大切に「駅前広場はだれのもの」 公徳心 社会 「社会を変える情報」